

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	現代ギリシア語への手引
Author(s)	関本, 至
Citation	ニダバ, 4 : 41 - 45
Issue Date	1975-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050964
Right	
Relation	



現代ギリシア語への手引

関 本 至

ギリシア語研究の面白味は、この言語が古代からコイネー時代、中世を経て近代に及ぶ長い歴史を有するための言語変遷の多面性と、それにも拘らずこの言語が一つの言語としての一貫性・単一性を保っており、これを全一体として捉えうるところにある。量質ともに豊かな文学の存在が大きい魅力であることは言うまでもない。

近代ギリシア語は、前期すなわちトルコ支配時代(1453~1821)と、後期すなわち1821~29の独立戦争以後の時代とに二分することができ、現在この言語を話す人の数は約800万である。1964年のノーベル文学賞受賞詩人セフェリスによって代表されるかなり見ごたえのある現代ギリシア文学も、この現代ギリシア語によって書かれている。

ところで、長い伝統を担う現代ギリシア語では、文語的な言語(katharevousa 純正語)と口語的な言語(demotike 民衆語)との間の隔りが非常に大きい。前者は古代語に近い性格をもち、官庁文書、科学書、新聞の政治面などに用いられ、後者は一般民衆の話し言葉を土台とし、詩や小説、新聞の娯楽面などで用いられる。純正語は古代ギリシア語の知識をもつ者には比較的理解し易いが、民衆語は文法の形もくずれ、語彙にはトルコ語や西欧の言語からの借用語が多く、古代語の知識のみでは理解が容易でない。現代ギリシア語には、長い歴史に由来するこの二重構造に加えて各地方の方言差もあり、その様相は単純ではない。しかしそれだけにまたわれわれの興味をそそる言語であるとも言えるであろう。

以下、主として民衆語に重点をおきつつ、現代ギリシア語の主な文法書と辞書についての概観を試みる。主要文献については、すでに拙著(後出)および拙稿(「学鏡」第66巻第2号、1969年所載「現代ギリシア語の文法書と辞書」)の中で列挙したことがあるが、それに多少の整理をほどこし、さらに新しいもの若干を加えた。

I 文 法 書

- (1) Sofroniou, S.A.: *Modern Greek*, London, 1962.¹ (in Teach Yourself Books)
- (2) Pring, J.T.: *A Grammar of Modern Greek On a Phonetic Basis*, London, 1961.⁶

- (3) Pernot, H.: *Grammaire du grec moderne, I, langue parlée*, Paris, 1917.³
- (4) Pernot, H. et Polack, C.: *Grammaire du grec moderne (langue officielle)*, Paris, 1918.
- (5) Mirambel, A.: *Grammaire du grec moderne*, Paris, 1949.
- (6) Mirambel, A.: *Introduction au grec moderne*, Paris, 1948.
- (7) Mirambel, A.: *La langue grec moderne, description et analyse*, Paris, 1959.
- (8) Mirambel, A. : *Grammaire du grec moderne ("Que sais-je" 1343)*, Paris, 1969.
- (9) Thumb, A.: *Handbuch der neugriechischen Volkssprache. Grammatik, Texte, Glossar*. Strassburg, 1910.
- (10) Thumb, A.: *Grammatik der neugriechischen Volkssprache*, 1915. (Sammlung Göschen); 2. Ausg. 1928 (mit Kalitsunakis).
- (11) Kalitsunakis, J.: *Grammatik der neugriechischen Volkssprache*, 1963. (Sammlung Göschen 756/756a)
- (12) Kalitsunakis, J. und Steinmetz, A.: *Neugriechisch-Deutsches Gesprächsbuch*, 1960. (Sammlung Göschen)
- (13) Kalitsunakis, J.: *Grammatik der neugriechischen Schriftsprache*, 1927. (Sammlung Göschen)
- (14) Moser-Philtsou, M.: *Lehrbuch der neugriechischen Volkssprache*, München, 1958.
- (15) Tzermias, P.: *Neugriechische Grammatik*, Bern und München, 1969.
- (16) Triantaphyllides, M.: *Neohellenike Grammatike (tes Demotikes)*, Athenai, 1941.
- (17) Triantaphyllides, M.: *Mikre Neohellenike Grammatike*, Athena, 1949.
- (18) Babiniotes, G.-Kontos, P.: *Synchronike Grammatike tes Koines Hellenikes*, Athenai, 1967.

(19) Tzartzanos, A.A.: *Neohellenike Syntaxis (tes Koines Demotikes)*, Athenai, I, 1946; II, 1953.

(20) Zoukes, G.: *Grammatike tes Neodemotikes*, Athenai, 1963?

(21) 関本至：現代ギリシア語文法、大阪、泉屋書店、1968

(1)(2)は英語で書かれた入門的な文法書。(1)は発音、基礎的文法、練習問題をふくみ、(2)はラテン文字を使ってあるので発音がわかり易く、主要な文法説明と例文がある。いずれも会話を主としている。

(3)~(8)はフランス語のもの。(3)は非常にすぐれた文法書で、出版年次は古いが今日でも利用価値大。(4)はその姉妹篇で、純正語の文法書。但し両書とも今日では入手困難。(5)は現在西欧で出ている最も代表的な文法書の一つである。(6)はほとんど会話の例題集であるが、現代ギリシア語の一般的解説や簡単な文法も掲載しており、(7)は音韻、文法、語彙に亘るかなり高度の研究書である。(8)は簡明な文法書。著者のMirambel 教授は現代ギリシア語学者として世界の最高峰に立つ人であったが、数年前に他界した。

ドイツ語で書かれたものの中、(9)は(3)と相並ぶものであり、今日でもはなはだ重要。(11)は(10)の改訂版、旧版に見られる方言に関する叙述は省かれたが、新版には非常に詳しい文献表があり、それだけでも大いに役に立つ。(12)は会話教本、(13)は純正語の文法書。Götschen 本はいずれも要を得ている。(14)は詳細懇切、例文豊富であるが、やや冗長、(15)は詳細且つ暫新。いずれも有用な文法書である。

ギリシア本国でも、もとより多数の文法書が出ており、高度に学術的なものから中小学校の教科書まで多種多様である。その幾つかを上に掲げた。(ギリシア文字はラテン文字にうつしかえて記した)(16)は民衆語の記述文法として最も詳しく、(17)はそれを簡約したもの。(18)は最新の代表的文法書(著者はアテネ大学の言語学の教授である。)(19)は統語法を詳論。(20)は他にも類書の多い簡単な文法書。(21)は目下のところ日本で出ている唯一の現代ギリシア語文法書である。

II 辞書

(22) *Divry's New English-Greek and Greek-English Handy Lictionary*
New York, 1953.

(23) Kykkotis, I.: *English-Greek and Greek-English Dictionary*,
London, 1942, 1947².

(24) Swanson, D.C.: *Vocabulary of Modern Spoken Greek (English-Greek and Greek-English)*, Mineapolis, 1959.

- (25) Pring, J.T.: *The Oxford Dictionary of Modern Greek (Greek-English)*, Oxford, 1965.
- (26) Pernot, H.: *Lexique grec moderne-français*, Paris, 1933.
- (27) Mirambel, A.: *Petit dictionnaire français-grec moderne et grec moderne-français*, Paris, 1960.
- (28) *Langenscheidts Taschenwörterbuch der neugriechischen und deutschen Sprache*----*Erster Teil, Neugriechisch-Deutsch*, von J.K. Mitsotakis 1933⁴ ; *Zweiter Teil, Deutsch-Neugriechisch*, von K. Dieterich, 1935⁵ (Neubearbeitung 1961 von A. Steinmetz.)
- (29) Tsoukanas, A.A.: *Neon Germano-Ellenikon Lexikon*, 1961 ; *Neon Elleno-Germanikon Lexikon*, Athenai.
- (30) Proïas : *Lexikon tes Neas Hellenikes Glosses*, Athenai.
- (31) Demetrakos: *Neon Orthographikon Hermeneutikon Lexikon*, Athenai, 1959.
- (32) Demetrakos: *Mega Lexikon tes Hellenikes Glosses*, 9 vols. Athenai, 1933-1952.
- (33) Akademia Athenon: *Historikon Lexikon tes Neas Hellenikes*, 1953-.
- (34) Andriotes, N.P.: *Etymologiko Lexiko tes Koines Neohellenikes*, Athenai, 1951, 1967².
- (35) Kourmoules, G.I.: *Antistrophon Lexikon tes Neas Hellenikes*, Athenai, 1967.
- (36) Dangitses, K.: *Lexiko ton Epitheton*, Athenai, 1963.
- (37) Bostantzoglos, Th.: *Analytikon Orthographikon Lexikon tes Neoellenikes Glosses*, Athenai, 1967.

希英辞書のうち、⑳は語彙数は少いが日常語を採集して特色をもち、㉑には新しいセンスが盛り込まれている。㉒はやや古い出版ながら方言なども採り入れ今なおきわめて有用である。㉓以下はギリシアの国語辞典であって、本格的の研究にはこれらが是非必要である。㉔は語源、民衆語、古語などの指示があり、例文もかなりあって大変便利。㉕は古代語より現代語までをふくみ、語彙数は㉓より多いが例文は乏しい。㉖は古代語より現代語まで語彙豊富、例文も多い。㉗はアテネのアカデミア編の「現代ギリシア語歴史辞書」、第4巻第1分冊まで出て以後中断されているが、各地の方言形の詳しい記述もあり、この事業(目下継続中)が完成したならば現代ギリシア語の最も権威ある辞書となるであろう。㉘は語源辞書として代表的なもの。㉙は逆引き辞典、㉚は名詞ごとにそれを修飾する形容詞を集めたもの、㉛は語の音節の区切りおよび語の変化のタイプを示した辞書。いずれも特殊な企図をもっている。

なおギリシアの歴史、文物、人物などを調べる上に、ギリシア出版の百科辞典はおおいに役に立つ。比較的新しい代表的なものに、Eleutheroudakes の12巻本(1962³)、Papyros-Larous の12巻本(1964)のほか、Petit Larousse ばりのPapyros の2巻本(1965)等がある。

このほか現代ギリシア語の研究書、論文、文学史、作品集など挙げるべきものはいろいろあるが、それらは別の機会にゆずりたい。(リンガフォンその他レコード教材も各種あることを附記しておく)